

競技注意事項

1. 競技規則について

2024 年度日本陸上競技連盟競技規則および本記録会申し合わせ事項により実施する。なお、【TR5（第14条：シューズ）】を適用するため、靴底の厚さ（ソールの最大の厚さ）は次の数値を超えないこと。

トラック種目 800m 未満：20 mm 800m 以上：25 mm フィールド種目 20mm

2. T I Cについて：競技場正面玄関ホールに設置する。

- (1)『様式B 欠場届』『様式C リレーオーダー用紙』『様式D プログラム訂正用紙』は当日受付と一緒に提出するが、それ以後提出する場合はT I Cに提出する。**リレーオーダー用紙は各種目1組の招集完了時刻の1時間前までに提出すること。**また、『様式A』は申請する団体のみ、受付後T I Cにて申請する。
- (2)シューズの厚底の計測 ※あらかじめTIC でチェックを受けておくと、招集時に時間がかからなくてよい。
靴底の厚さは上記、「競技規則について」を参照
- (3)各種問合せ、落とし物の対応など。
- (4)プログラム販売（1冊400円）数に限りがあります。

3. 招集について

- (1)招集は、100mスタート後方のゲートから入ったところで行う。招集後の競技場所への移動方法については「別紙1」を参照すること。
- (2)各種目の招集開始時刻並びに招集完了時刻は、競技日程に記載の通りとする。
- (3)招集の際、ユニフォーム、アスリートビブス（ナンバーカード）、競技時に使用するシューズのチェックをする。また、トラック種目で、スパイク以外のシューズを使用する場合は、靴底の厚さを計測する。
※ランニングパンツとスパッツを併用（重ね着）する際はどちらかの商標を隠す。できればランニングパンツとスパッツの併用（重ね着）は控え、どちらか一方のみの着用としたい。
- (4)必ず本人が招集を受けることとし、代理人による招集は認めない。ただし、リレーと個人種目の競技と招集が重なる場合は、その旨を競技者係の審判に伝える。
- (5)招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技を欠場・棄権したものとみなす。
- (6)トラックの横断は、細心の注意を払うこと。（横断可能な場所は、「別紙1」を参照のこと）

4. アスリートビブス（ナンバーカード）、腰ナンバー標識

- (1)アスリートビブスは各選手が持参し、そのままの大きさで胸と背部に確実に固定する（跳躍競技については胸または背部どちらかでよい）。24 cm×16 cmの大きさに規格が変わっているので注意。
- (2)必ずプログラムに記載されたナンバーカード（登録ナンバーと同一）を用いる。
- (3)800m、1500m、3000m の競技者は、自分のアスリートビブス（ナンバーカード）を胸と背に固定するとともに、招集時に腰ナンバー標識を受け取り、パンツ右側の上部、やや後ろにつける。なお腰ナンバー標識はシール式のため返却はしない。
- (4)小学生のトラック種目に出場する選手は全員腰ナンバー標識を付ける。ただしリレーはアンカーのみ。

5. 競技方法について

- (1)トラック競技
 - ①レーン順はプログラム記載の通りとする。
 - ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。

(2) フィールド競技

- ①試技順はプログラム記載の通りとする。
- ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ③跳躍種目の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカーを 2 個まで置くことができる。走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に 2 箇所まで置くことができる。
- ④砲丸投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを 1 つだけ置くことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行う。
- ⑤走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、当日決めることとする。

(3) リレー競技

- 4×100mリレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大 50mm×400mm の粘着テープを 1 箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行う。

(4) 抗議

- 競技会進行中に起きた競技者の行為、または記録に関する抗議は、正式結果が発表（アナウンス）されてから 30 分以内（次のラウンドがある場合は 15 分以内）に、その種目に出場した競技者自身または代理人が「T I C」まで申し出る。

(5) 助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出た上で、競技役員の指示に従って行動しなければならない。
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③指導者等からの助言は、ADを付けた当該選手関係者がコーチングエリア内で行う。（各団体2名までADの申請ができる）その際、指導者等がスタンドで撮影した機器を、コーチボックス横で競技者が手に取って操作しても良いが、手に取って見たあとに競技エリアに持っていくことはできない。

10. その他

- (1)競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のものを使用できる。
- (2)スパイクピンの長さは、9mm 以内とし、走高跳は 12mm 以内とする。
- (3)スタンドの通路に立って観戦や応援をすることは、座って観戦している方の迷惑になるのでしないこと。
- (4)ゴミは、各自持ち帰ること。
- (5)プログラムに記載されている個人情報、大会運営業務以外には使用しない。ただし、競技成績は、長野陸上競技協会のホームページに掲載されることがある。
- (6)補助競技場に走高跳のマットを出さない、マットでの練習をしたい場合は、招集時刻を早めてあるので、競技場内でマットを使って練習することができる。
- (7)ハードルの練習は、200m、100m の競技中に、バックストレートで練習することができる。場内で練習するときは TIC にてナンバーカードでチェックを受け、練習場所に行くようにすること。練習後は、招集を受けることを忘れないこと。
- (8)盗難事象が発生することがあるため、各校待機場所が無人にならないようにするなど、団体毎に管理をお願いしたい。
- (9)本記録会で盗撮行為があった場合は適切な処置をとります。おかしいと思う撮影を見かけた場合は TIC へ連絡してください。撮影禁止エリアでの撮影（別紙 2 参照）、チーム関係者以外の撮影は絶対に行わないこと。